

[研究論文]

小中学校における防災教育の授業計画案
 ——社会性と情動の学習「SEL-8S」学習プログラムの追加の学習ユニットとして——

Planning additional learning units for disaster management to Social and Emotional Learning of 8 Abilities at the School program

米山祥平

Syohei YONEYAMA

福岡教育大学

小泉令三

Reizo KOIZUMI

福岡教育大学教職実践講座

(2015年1月30日受理)

本論では、既存の防災教育とストレスマネジメント教育を統合することで、児童生徒に自然災害から命とところを守る方法を獲得させ、災害時における共助の精神を身に着けさせるための授業計画案を作成した。授業計画案は社会性と情動の学習「SEL-8S」学習プログラムの追加の学習ユニットとして作成し、児童生徒が従来のSEL-8Sプログラムにおいて身に着けた意思決定能力や対人関係能力、奉仕の精神などを災害から命やところを守るため方法や、災害時の共助に応用できるように工夫した。追加の学習ユニットは4段階の発達段階（小学校低・中・高学年、および中学校）に1—3ユニットずつ、計9ユニットを作成し、各学習ユニットには関連授業（その学習ユニットを実施する前後に実施しておくことが望ましい、内容上関連のある授業）を明記して効率的・体系的な学習が行えるように努めた。

キーワード：社会性と情動の学習，防災教育，ストレスマネジメント教育

学校における防災教育の改善

我が国は地震や台風などの自然災害の脅威に常に晒されている国であり、2011年3月の東日本大震災などでも痛ましい人的被害を受けている。このため、国や地方自治体などによってさまざまな防災の取組が行われており（国土交通省港湾局、2013；横浜市危機管理室、2013）、学校においてもそうした取組のひとつとして防災教育が行われている。

文部科学省(2013)は防災教育の方針を Table 1

のように示している。さらに、防災教育に関する国内外の先行研究を整理したところ、自然災害の性質や危険性、メカニズム、地域の災害や災害史、災害発生時の身の守り方、防災の準備・計画などを扱った授業や教材が開発されていた（木幡・池田、2012；水田、2011；Ronan & Johnston, 2003；菅原・鳥山・月舘、2012；UNESCO, 1998）。こうしたことから、現在の防災教育は主として自然災害から命を守るための適切な知識や主体的な判断・行動を児童生徒に身に着けさせるための教育であるといえる。

一方、自然災害がもたらす被害には、

Table 1 防災教育のねらい

ア	自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる。
イ	地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
ウ	自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

文部科学省(2013)『「生きる力」を育む防災教育の展開』より抜粋

PTSD(Post Traumatic Stress Disorder: 心的外傷後ストレス障害)などのこころの被害も存在する (Baggerly, & Exum, 2008; Evans & Oehler-stinnett, 2006; 久留・餅原, 2003)。これに関して、さまざまな領域の専門家による心理支援が行われており (大倉・高橋・谷・鈴木・東谷, 1996; Wolmer, Laor, & Yazgan, 2003), 学校においてもそのひとつとしてストレスマネジメント教育が提案されている。

自然災害対策の一環としてのストレスマネジメント教育に関して先行研究を整理したところ、ストレスに関する知識や、ストレスを認知する方法、ストレス対処やリラクセーショントレーニングを児童に教えることが提案されており (日本生理人類学会ストレス研究部会, 1998), また、不安症状についての知識やリラクセーションスキルを子どもに教えることで子どもの不安症状が解消されたことが報告されていた (Weems, Taylor, Costa, Marks, Romano, Verrett, & Brown, 2009)。こうしたことから、現在の自然災害対策としてのストレスマネジメント教育は自然災害からこころを守るための知識や認知やスキルを児童生徒に身に着けさせるための教育であるといえる。

自然災害が命とこころの両方に被害を与えることから、自然災害への対策も命とこころの両方を守ることができる必要がある。しかし、先行研究を整理した限りでは、防災教育とストレスマネジメント教育は別々に行われており、統一的に行われた例は見受けられなかった。

一方で、文部科学省(2013)による防災教育の方針を見ると、防災教育には生命への尊重や地域防災への積極的参与といった態度・価値観を児童生徒に身に着けさせる目的も存在することが分かる (Table 1)。さらに、被災地支援活動にはそれを行う活動者自身の自己効力感を高め、レジリエンス (回復力) を強める効果があることを指摘して、子どもに対する心理支援策のひとつとして被災地支援活動への積極的参与を勧める先行研究もある (日本学校心理士会, 2011b, c)。こうしたことから、地域防災や地域復興に積極的に関わる態度・価値観の教育 (以下、共助の精神の教育) を、ストレスマネジメント教育と関連づけて行うことで、単に被災地に貢献できるだけでなく、そうした活動を通して自分自身のこころをも守ることのできる児童生徒を育成できると考えられる。しかし、先行研究を調査した限りでは、共助の精神の教育をストレスマネジメント教育と関連づけて実施した例は存在しなかった。

そこで、本論では防災教育とストレスマネジメント教育を統一して、命を守る教育と、こころを守る教育と、共助の精神の教育の3つのテーマから成り立つ新しい防災教育の在り方を提案する。さらに、そうした防災教育の学習ユニットを作成するとともに、それらの学習ユニットを発達段階別に配置した授業計画案を作成する。

授業計画案の構成と内容

自然災害の発生時には、自然災害から命を守るための適切な知識に加えて、主体的な判断や行動が必要であると考えられ、文部科学省(2013)もそれらの育成を防災教育の方針として定めている (Table 1)。また、自然災害後のこころの健康の保全における自尊感情と対人関係能力の重要性が指摘されている (栗本・足立・窪田・坪井・松本・森田, 2013)。しかし、そうした知識・判断・行動や、自尊感情・対人関係能力の育成は時間を要するものであり、防災教育の時間の中だけでは十分な学習が行えるとは言い難い。そこで、そうした不足を補うための方法として社会性と情動の学習「SEL-8S」学習プログラム (小泉, 2011; 小泉・山田, 2011a; 小泉・山田, 2011b) に着目する。

SEL-8S プログラムは、SEL (Social and Emotional Learning) プログラムと呼ばれる種々の学習プログラムのひとつであり、さまざまな訓練法や講義・演習を組み合わせた授業によって8つの社会的能力 (「自己への気づき」「他者への気づき」「自己のコントロール」「対人関係」「責任ある意志決定」「生活上の問題防止スキル」「人生の重要事態に対処する能力」「積極的・貢献的な奉仕活動」) を育成する。SEL-8S プログラムはあいさつの仕方や、交通事故・犯罪被害の回避法など、さまざまな内容の学習ユニットから構成される。基本的に1回の学習ユニットは1授業単位時間に相当し、1回の学習ユニットにおいて1つないし複数の社会的能力育成を目指している。SEL-8S プログラムでは、こうした学習ユニットを複数回実施して、8つの社会的能力を育成する。

こうした SEL-8S プログラムにより日頃から意思決定や対人関係の能力を育成し、自尊感情を高めておくことで、防災教育を行った際には、SEL-8S プログラムでの学習経験を基盤として、目標とする能力を効率的に身に着けることができると期待される。そこで本論では SEL-8S プログラムの追加の学習プログラムとして防災教育の学習ユニットを複数作成するとともに、それらを組

み合わせた授業計画案を作成する。

授業計画案全体の構成

授業計画案は、児童生徒を複数の発達段階に分けたうえで、発達段階別に1—3個の学習ユニットを配置するように構成する。個々の学習ユニットでは、命を守る教育かこころを守る教育か共助の精神の教育のいずれかひとつを扱うようにし、その内容を児童生徒の発達段階に合わせたものにする。さらに、各学習ユニットには、その前後に実施すべき授業ないしSEL-8Sプログラムの学習ユニットを明確に定める（以下、関連授業）。授業計画案をこのような構成にすることで、児童生徒は関連授業で身に着けた知識・判断・行動や、自尊感情・対人関係スキルを基盤にして防災教育を受けることができるようになり、より効率的な学習を行えると期待される。こうして作成した授業計画案をTable 2に示す。

各学習ユニットの内容

1. 小学校低学年 小学校低学年には、SEL-8Sプログラム小学生版(小泉・山田, 2011a)の追加の学習ユニットとして、F11「災害を知ろう」という学習ユニットを配置する。

この学年には、命を守る教育に関する学習ユニットだけを配置し、こころを守る教育と共助の精神の教育に関する学習ユニットを配置しないこととする。このようにする理由は、児童の発達段階を考慮した場合に、災害によるストレスへの対処や災害後の地域貢献などを教育することが難しいと考えられるからである。そこで、こころを守る教育や共助の精神の教育は、日常的な場面で使用するスキル・態度・価値観のなかで、この学年の児童にも獲得できそうであり、かつ災害場面でも役立ちそうな能力を関連授業において育成するのみにとどめることとする。

1.1. F11「災害を知ろう」 この学習ユニットでは火災もしくは地震を想定災害としてTable 2のような授業を行う。これらを想定災害とする理由は、これらがどの地域においても発生し得る自然災害だからである。この学習ユニットにおいて育成する社会的能力は「責任ある意思決定」と「生活上の問題防止スキル」である。

この学習ユニットでは、関連授業として避難訓練を設定することで、児童がこの学習ユニットで身に着けた知識を避難訓練に応用できるように目指す(Table 2)。

1.2. その他の教育 こころを守る教育では、関連授業を通して、児童が自分の気持ちを認知して言葉で表現できるように目指す。これは、自分

の気持ちを認知して言葉で表せるようになっておくと、心理支援を受けやすくなるからである。

共助の精神の教育では、関連授業を通して、児童の仲間関係の強化に努める。これは、ピアサポート（友だち同士の支え合い）が災害後の生活において児童への心理的サポートとなることが指摘されているからであり(日本学校心理士会, 2011d), 日頃から仲間関係を強化しておくことでピアサポートの有効性を高める目的がある。

2. 小学校中学年 小学校中学年には、F12「町中での災害を知ろう」、およびF13「災害後のストレスを知ろう」という学習ユニットを配置する。

この学年では、命を守る教育と、こころを守る教育を扱うようする。このようにする理由は小学校低学年のときと同様であり、共助の精神の教育は関連授業に委ねるようにする。

2.1. F12「町中での災害を知ろう」 この学習ユニットでは地震を想定災害としてTable 2に示すような授業内容を扱い、「責任ある意思決定」と「生活上の問題防止スキル」の育成を目指す。

この学習ユニットと関連授業を関連づけることで、自然災害発生時に地域内で特に危険となる場所を児童がより明確に把握できるように目指す(Table 2)。

2.2. F13「災害後のストレスを知ろう」 この学習ユニットではTable 2のような授業内容を扱い、「自己への気づき」と「自己のコントロール」、
「生活上の問題防止スキル」の育成を目指す。

この学習ユニットは、SEL-8Sプログラムの学習ユニットであるE2「イライラよ、さようなら」やE3「こんな方法があるよ」(小泉・山田, 2011a)の実施を前提としており、児童がこれらの関連授業で身に着けたストレス対処を自然災害によるストレスに応用できるように目指す。さらに、「自己への気づき」を育成できる学習ユニットも関連授業として設定する(Table 2)。

2.3. 共助の精神の教育 関連授業を通して日頃から児童の仲間関係の強化に努め、ピアサポートの効果を高めるように目指す。さらに、ボランティア活動の強化にも努めるようにする(Table 2)。

3. 小学校高学年 小学校高学年には、F14「火災の性質を知ろう」、およびF15「災害のストレスに備えよう」、F16「災害のあとは支えあおう」という学習ユニットを配置する。

3.1. F14「火災の性質を知ろう」 この学習ユニットでは火災を想定災害としてTable 2に示すような授業内容を扱い、「責任ある意思決定」と「生活上の問題防止スキル」の育成を目指す。

Table 2 防災教育の授業計画案

学年	ユニット名	テーマ	授業内容	重要な気づきやスキル	関連授業 ^{a)}
小学校低学年	F11 防災教育 「災害を知ろう」	命	災害(火事もしくは地震から任意に設定)に関する説明や映像などを通して災害の恐ろしさを知り、災害から命を守る方法を知る。また、災害時の屋内から避難する際に存在する危険を知り、安全に避難できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の怖さを知り、命を守る動機を高める^{b)} ・災害時に生じる危険、およびそれから命を守る方法を知り、主体的な判断でその方法を用いることができる^{b)} ・避難の過程に存在する危険を知り、安全に避難できる^{b)} 	火災を想定した避難訓練(特別活動 学校行事) ^{c)} 地震を想定した避難訓練(緊急地震速報)(特別活動 学校行事) ^{c)}
		こころ	この学年では学習ユニットを設定しない。 ただし、災害後に適切なメンタルサポートを受けやすくするために、日頃から自分の気もちを認知し、言葉で表せるように指導しておく。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情や、それに伴う動作・表情の特徴に気づく ・それらの感情が生起する場面を説明できる ・自分の気もちを言葉で表すことができる 	B1「おこっているわたし」 ^{d)} B2「いろんな気もち」 ^{d)} E1「うれしいこと、しんばいなこと」 ^{d)}
	共助	この学年では学習ユニットを設定しない。 ただし、ピアサポートの効果を高めるために、日頃から仲間関係の強化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から対人関係を始めることができる ・相手のために、自分から積極的に対人関係を始めることができる ・積極的に対人関係を築くことへの動機を高める 	D1「入れて！」 ^{d)} D2「手つだってあげよう」 ^{d)}	
小学校中学年	F12 防災教育 「町中での災害を知ろう」	命	地震の怖さを知る。さらに、地域の地図を教材として、町中で地震に遭った場合に危険な場所を知り、そうした危険から命を守る方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の怖さを知り、命を守る動機を高める^{b)} ・地域内において地震発生時に危険が想定される場所と、そこで生じる危険を知る^{b)} ・地震による危険から命を守る方法を知り、自分の判断でそれを行える^{b)} 	安全なくらしとまちづくり(社会) ^{c)} オリジナル安全マップをつくらう(総合的な学習の時間) ^{c)} F4「危険な場所」 ^{d)} F5「こんなときは注意！」 ^{d)}
		こころ	災害後に小学生に一般的に見られるストレス反応について知る。また、そうした反応が自然なものであり、いつかは回復することを知り、人間には困難に負けない強さがあることを知る。さらに、これまで身に着けたストレス対処を復習し、それらを災害後のストレスに応用できることを知る。 (※E2「イライラよ、さようなら」もしくはE3「こんな方法があるよ」で取り上げたストレス対処を復習することで、それらのうちどんな対処法が災害後のストレスに応用可能なのかを知る)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後に小学生に一般的に見られるストレス反応について知る ・そうした反応が自然なものであり、いつかは回復することを知る ・人間には困難に負けない強さがあることを知る ・これまで身に着けたストレス対処を災害後のストレスに応用できる 	B3「自分はどんな気持ち？」 ^{d)} ※E2「イライラよ、さようなら」 ^{d)} ※E3「こんな方法があるよ」 ^{d)}
	共助	この学年では学習ユニットを設定しない。 ただし、ピアサポートの効果を高めるために、日頃から仲間関係の強化に努める。また、日頃からボランティア活動の強化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちが困っているときに声をかけることへの動機を高める ・家族のために自分ができる役割を知る ・家族のために家の手伝いなどをする事への動機を高める 	H3「持ってあげようか」 ^{d)} H4「わたしの役割」 ^{d)}	
小学校高学年	F14 防災教育 「火災の性質を知ろう」	命	火災の怖さを知る。さらに、火や煙の性質を知り、それらを踏まえて火や煙の危険を避けながら安全に避難するための判断を身に着ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の怖さを知り、命を守る動機を高める^{b)} ・火や煙の性質を知る ・火災発生時に火や煙を避けながら安全に避難するための判断を身に着ける 	火災を想定した避難訓練(特別活動 学校行事) ^{c)}

Table 2 防災教育の授業計画案（続き）

	F15 防災教育 「災害のストレスに備えよう」	こころ	災害後に小学生に一般的に見られるストレス反応について知る。さらに、災害による辛い経験を大人に話すことでストレスが減ることを知る。 (※E4「リラックスして」で訓練したリラクゼーショントレーニングを復習することで、それを災害後のストレスに応用できるようになる)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後に小学生に一般的に見られるストレス反応について知る ・災害による辛い経験を大人に話すことでストレスが減ることを知る ・リラクゼーション法を災害後のストレスに応用できる 	※E4「リラックスして」 ^{d)}
	F16 防災教育 「災害のあとは支えあおう」	共助	災害後場面において辛い経験をした友だちの気持ちを理解する大切さを知る。さらに、そうした友だちの気持ちを理解することができるようになり、温かい言葉をかけることができるようになる。友だち同士で互いに支え合うことへの動機を高める。 (▼B6「相手はどんな気持ち？」で身に着けた相手の気持ちを理解するためのコツを復習することで、それを災害により傷ついた友だちに対しても応用できるようになる)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後場面において辛い経験をした友だちの気持ちを理解する大切さを知る ・そうした友だちの気持ちを理解でき、温かい言葉をかけることができる ・友だち同士で互いに支え合うことへの動機を高める 	▼B6「相手はどんな気持ち？」 ^{d)} H5「下級生のお世話」 ^{d)} H6「いろいろあるよ」 ^{d)}
中学校	F7 防災教育 「災害から命を守る」	命	正常性バイアス ^{e)} や同調行動 ^{f)} について知り、そうした認知や行動を取らずに素早く避難を開始するための判断を身に着ける。さらに、さまざまな要因を考慮し、結果を予測しながら、安全に避難するための判断を身に着ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・正常性バイアスや同調行動について知る ・そうした認知や行動を行わないように注意しながら素早く避難を開始するための判断を身に着ける ・さまざまな要因を考慮し、結果を予測しながら、安全に避難するための判断を身に着ける 	火災を想定した避難訓練（特別活動 学校行事） ^{d)} 津波を想定した避難訓練 ^{d)}
	F8 防災教育 「災害からこころを守る」	こころ	災害後に中高生に一般的に見られるストレス反応について知る。さらに、災害による辛い経験を大人に話すことでストレスが緩和されることを知る。さらに、トラウマのリスク要因について知り、それらを回避できるようになる。 (▼E2「ストレスマネジメントⅡ」もしくは F3「ポジティブに考えよう！」で取り上げたストレス対処を復習することで、それらを災害後のストレスに応用できるようになる)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後に中高生に一般的に見られるストレス反応について知る ・これまでに身に着けたストレス対処を災害によるストレスに対して応用できる ・災害による辛い経験を大人に話すことでストレスが緩和されることを知る ・トラウマのリスク要因について知り、それらを回避できる 	E1「ストレスマネジメントⅠ」 ^{d)} ▼E2「ストレスマネジメントⅡ」 ^{d)} ▼F3「ポジティブに考えよう！」 ^{d)}
	F9 防災教育 「災害後の共助」	共助	災害後の生活場面で中学生に行える復旧・復興支援活動があることを知る。さらに、そうした活動が自分自身のストレスケアになることを知る。それらを通し、災害後の生活場面での復旧・復興支援活動に対する動機を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後の生活場面で中学生に行える復旧・復興支援活動があることを知る ・支援活動が自分自身のストレスケアになることを知る ・災害後の生活場面での復旧・復興支援活動に対する動機を高める 	H1「学校でのミニボラ？」 ^{d)} H2「地域でのボランティア」 ^{d)}

(注) 大括弧〔 〕は、防災教育の学習ユニットの中では扱わないが、他の授業や日頃の指導を通して育成を心掛けておくべき能力について記述している。米印(※)は、その学習ユニットを行う上で事前に実施することが必須となる関連授業を表す。黒い下向き三角形(▼)は、その学習ユニットを行う上で事前に行うことが推奨される関連授業を表す。

- 各学習ユニットと関連づける授業。
- 文部科学省(2013)が示した防災教育の展開例に基づいて設定した気づきやスキル。
- 文部科学省(2013)が防災教育の展開例として示した授業。
- 小泉・山田(2001a, b)が作成した SEL-8S プログラムの学習ユニット。
- 多少の異常事態であっても、それを異常と考えずに、正常の範囲内であると捉えてしまう傾向(邑本, 2012)。
- 自分のとるべき行動を決める際に、他者の影響を受け、他者と同じ行動をとろうとする傾向(邑本, 2012)。

関連授業として避難訓練を設定することで、児童がこの学習ユニットで身に着けた知識を避難訓練に応用できるように目指す(Table 2)。

3.2. F15「災害のストレスに備えよう」 この学習ユニットでは Table 2 のような授業内容を扱う。このような授業内容にする理由は自然災害によるトラウマ経験を大人に語ることで子どものトラウマを回復させるために有効であると報告されているからである(日本学校心理士会, 2011a)。この学習ユニットでは「自己への気づき」と「自己のコントロール」, 「生活上の問題防止スキル」, 「人生の重要事態に対処する能力」の育成を目指す。

この学習ユニットは, SEL-8S プログラムの学習ユニットである E4「リラックスして」(小泉・山田, 2011a)の実施を前提としており, 児童が関連授業で身に着けたリラクゼーション法を自然災害によるストレスに応用できるように訓練する(Table 2)。

3.3. F16「災害のあとは支えあおう」 この学習ユニットでは Table 2 のような授業内容を扱い, 友だち同士での支え合いを動機づける。この学習ユニットでは「他者への気づき」と「対人関係」, 「生活上の問題防止スキル」, 「積極的・貢献的な奉仕活動」の育成を目指す。

この学習ユニットは, B6「相手はどんな気持ち?」(小泉・山田, 2011a)の事前実施を推奨しており, 実施していた場合には児童が関連授業で身に着けた他者理解のポイントを災害により傷ついた友だちに対しても応用できるように訓練することで友だち同士の支え合いを促す。さらに, 「積極的・貢献的な奉仕活動」を育成できる学習ユニットも関連授業として設定する(Table 2)。

4. 中学校 中学校には, SEL-8S プログラムの中学生版(小泉・山田, 2011b)の追加の学習ユニットとして, F7「災害から命を守る」と, F8「災害からここを守る」, F9「災害後の共助」という学習ユニットを配置する。これらの学習ユニットには実施学年や実施順序を設定せず, 各学校の方針や学級の実情に合わせて実施するユニットを教師が任意に選択できるようにする。

4.1. F7「災害から命を守る」 この学習ユニットでは Table 2 のような授業内容を扱う。このような授業内容にする理由は, 災害時に正常性バイアスや同調行動が生起することの危険性が指摘されている(文部科学省, 2013; 邑本, 2012; 横浜市危機管理室, 2013)からである(正常性バイアスや同調行動については, Table 2 の脚注 e) と f) を参照のこと)。この学習ユニットでは「責任ある

意思決定」と「生活上の問題防止スキル」の能力の育成を目指す。

この学習ユニットの関連授業を Table 2 のように設定する。この学習ユニットでは避難を始めるまでの判断を重点的に扱い, 関連授業において避難を始めてからの行動を訓練する。

4.2. F8「災害からここを守る」 このユニットでは Table 2 に示す授業内容を扱い, 「自己のコントロール」と, 「生活上の問題防止スキル」, 「人生の重要事態に対処する能力」の育成を目指す。

この学習ユニットは SEL-8S プログラムの学習ユニットである E2「ストレスマネジメントⅡ」や F3「ポジティブに考えよう!」(小泉・山田, 2011b)の事前実施を推奨しており, 実施していた場合には生徒が関連授業で身に着けたストレス対処を自然災害によるストレスに応用できるように訓練する。さらに, 生徒にストレス認知を身に着けさせることのできる学習ユニットを関連授業に設定する(Table 2)。

4.3. F9「災害後の共助」 この学習ユニットでは Table 2 のような授業内容を扱い, 「他者への気づき」と, 「生活上の問題防止スキル」, 「積極的・貢献的な奉仕活動」の育成を目指す。

この学習ユニットの関連授業を Table 2 のように設定する。この学習ユニットにおいて育成する能力である「積極的・貢献的な奉仕活動」の能力を, 関連授業を通して日頃から育成しておくことにより, この学習ユニットにおける学習が促進されると期待される。

学習指導要領との関連

最後に, 防災教育の各学習ユニットと学習指導要領(文部科学省, 2007a, b)との関連について, 主に想定されるものを Table 3 にあげる。防災教育の学習ユニットは全体として特別活動の内容である「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」と関連している(Table 3)。

3つのテーマを個別に見てみると, 命を守る教育はすべての発達段階を通して総合的な学習の時間の目標である“自ら考え, 主体的に判断し, よりよく問題を解決する資質や能力を育成する”という目標と関連している(Table 3)。ここを守る教育は, 小学校高学年と中学校において, 体育や保健体育の教科における心や精神の健康に関する内容と関連している(Table 3)。共助の精神の教育は道徳における他者に対する思いやりに関する内容と関連している(Table 3)。また, 中学校におい

ては特別活動の内容である“ボランティア活動の意義の理解と参加”や“心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成”に関連している。

今後の課題と展望

本研究では従来の防災教育とストレスマネジメント教育を統一して、命を守る教育とところを守る教育と共助の精神の教育の3つのテーマから構成される新たな防災教育の在り方を提案した。そ

して、防災教育の学習ユニットを作成するとともに、それらを発達段階別に配置した防災教育の授業計画案を作成した。今後は以下のことが研究を展開するうえでの課題となる。

まず、ここで作成した学習ユニットを具体化し、詳細な指導手続きを備えた指導案を作成することが課題となる。この際には、ロールプレイやグループワークの機会をできるだけ多く設けるようにする、画像や視聴覚教材などを有効に利用する、といった工夫を行う。

Table 3 各学習ユニットと学習指導要領の関連

	防災教育		学習指導要領		
	学習ユニット	テーマ	教科・学習活動	見出し・区分	記述
低 学 年 学 校	F11	命	総合的な学習の時間	目標	自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する
			特別活動〔学級活動〕	内容〔共通事項〕(2)カ	心身ともに健康で安全な生活態度の形成
小 学 校 中 学 年	F12	命	社会	〔第3学年及び第4学年〕 内容(1)	地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする
			総合的な学習の時間	目標	自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する
			特別活動〔学級活動〕	内容〔共通事項〕(2)カ	心身ともに健康で安全な生活態度の形成
	F13	ところ	特別活動〔学級活動〕	内容〔共通事項〕(2)カ	心身ともに健康で安全な生活態度の形成
小 学 校 高 学 年	F14	命	総合的な学習の時間	目標	自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する
			特別活動〔学級活動〕	内容〔共通事項〕(2)カ	心身ともに健康で安全な生活態度の形成
	F15	ところ	体育	〔第5学年及び第6学年〕 内容 G保健(1)ウ	不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること
			特別活動〔学級活動〕	内容〔共通事項〕(2)カ	心身ともに健康で安全な生活態度の形成
	F16	共助	道徳	内容〔第5学年及び第6学年〕(2)	だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする
			特別活動〔学級活動〕	内容〔共通事項〕(2)カ	互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う
中 学 校	F7	命	総合的な学習の時間	目標	自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する
			特別活動〔学級活動〕	内容(2)キ	心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
	F8	ところ	保健体育〔保健分野〕	内容(1)エ	欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること
			特別活動〔学級活動〕	内容(2)キ	心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
	F9	共助	道徳	内容 2(2)	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ
			特別活動〔学級活動〕	内容(2)ウ	社会の一員としての自覚と責任
内容(2)カ			ボランティア活動の意義の理解と参加		
			内容(2)キ	心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成	

(注) 各学習ユニットの3つのテーマの授業内容が、学習指導要領(文部科学省, 2007a, b)のどの科目や学習活動におけるどの記述に関連しているかを表している。

次に、学習内容の定着を図ることが課題となる。本研究で作成した授業計画案では各発達段階に1-3個の学習ユニットを配置したが、これだけではねらいとするスキル・態度・価値観を十分に定着させられない可能性がある。そこで、避難訓練の定期的な実施を徹底したり、ボランティア奨励週間を設けたりして、各学習ユニットで扱った内容を定着させるための工夫を行う。

最後に、こうして具体化した学習ユニットの有効性を検証することが課題となる。このために、小中学校において学習ユニットを試験的に実施し、学習効果をテストする必要がある。

これらの課題を解決していくことで、学校現場での実践に適した防災教育の学習プログラムを作成できると考えられる。

引用文献

Baggerly, J., & Exum, H. A. (2008). Counseling children after natural disasters: Guidance for Family Therapists. *The American Journal of Family Therapy*, **36**, 79-93.

Evans, L. G., & Oehler-stinnett, J. (2006). Structure and prevalence of PTSD symptomology in children who have experienced a severe tornado. *Psychology in the Schools*, **43**, 283-296.

広瀬弘忠・杉森信吾 (2005). 正常性バイアスの実験的検討 東京女子大学心理学紀要, **1**, 81-86.

久留一郎・餅原尚子 (2003). 土石流災害による子どもへの心理的影響—PTSD 症状を呈した事例を通して— 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, **13**, 57-67.

木幡亜加里・池田保夫 (2012). 東地域を例にした津波に対する教材研究と防災教育への活用 北海道教育大学釧路校研究紀要, **44**, 49-58.

小泉令三 (2011). 子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S①社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践 ミネルヴァ書房

小泉令三・山田洋平 (2011a). 子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S②社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方小学生編 ミネルヴァ書房

小泉令三・山田洋平 (2011b). 子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S③社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方中学生編 ミネルヴァ書房

国土交通省港湾局 (2013). 港湾の津波避難対策に関するガイドライン 国土交通省 2015年1月23日 <<http://www.mlit.go.jp/index.html>> (2015年1月23日)

栗本真希・足立知子・窪田由紀・坪井裕子・松本真理子・森田美弥子(2013). 心の減災教育プログラムの開発と試行実施 こころの減災研究会 2014年11月21日 <<http://kokoro-gensai.educa.nagoya-u.ac.jp/wordpress/>> (2015年1月22日)

水田敏彦 (2011). 秋田県の歴史地震を対象とした子ども向け防災教育絵本の試作—1896年陸羽地震と1914年秋田仙北地震を事例として— 日本建築学会学術講演梗概集, F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題 2011, 933-934.

文部科学省 (2007a). 中学校学習指導要領
文部科学省 (2007b). 小学校学習指導要領
文部科学省 (2013). 学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開

邑本俊亮 (2012). 避難と情報 電子情報通信学会誌, **95**, 894-898.

日本学校心理士会 (2011a). 地球規模の災害—子どもたちの対処する力を援助する— 一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会 2014年12月25日 <<http://gakkoushinrishi.jp/>> (2015年1月22日)

日本学校心理士会 (2011b). 東日本大震災について 子どもたち(児童生徒)に話す—教師や保護者のためのヒント— 一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会 2014年12月25日 <<http://gakkoushinrishi.jp/>> (2015年1月29日)

日本学校心理士会 (2011c). 危機の援助—事実とヒント— 一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会 2014年12月25日 <<http://gakkoushinrishi.jp/>> (2015年1月29日)

日本学校心理士会 (2011d). 自然災害にあった子どもたちへの支援—保護者や教師ができること— 一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会 2014年12月25日 <<http://gakkoushinrishi.jp/>> (2015年1月29日)

日本生理人類学会ストレス研究部会(編) (1998). 震災ストレスケア・マニュアル(小学生版) 一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会 2014年12月25日 <<http://gakkoushinrishi.jp/>> (2015年1月23日)

大倉朱美子・高橋進・谷常保・鈴木竜太・東谷明子 (1996). 阪神大震災疎開後に PTSD を発症した児童への芸術療法—災害と PTSD II— 心身医学, **36** (抄録), 181.

Ronan, K., & Johnston, D. M. (2003). Hazards Education for Youth: A Quasi-Experimental Investigation. *Risk Analysis*, **23**, 1009-1020.

菅原雄一・鳥山香織・月舘敏榮 (2012). 防災安全マップづくりを利用した防災教育に関する研究—青森県八戸市立小中野小学校を事例として— 日本建築学会大会学術講演梗概集 2012(教育), 47-48.

UNESCO (1998). *I invite you to know the earth I: Elementary school 2nd to 4th grade teacher's guidebook [and] text for elementary school 2nd to 4th grade*. United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization, Paris (France). Intergovernmental oceanographic commission. <<http://eric.ed.gov/?id=ED436373>>

Weems, C. F., Taylor, L. K., Costa N. M., Marks, A. B., Romano, D. M., Verrett, S. L., & Brown, D. M. (2009). Effect of a School-Based Test Anxiety Intervention in Ethnic Minority Youth Exposed to Hurricane Katrina. *Journal of Applied Developmental Psychology*, **30**, 218-226.

Wolmer L., Laor N., & Yazgan Y. (2003). School reactivation programs after disaster: could teachers serve as clinical mediators? *Child and Adolescent Psychiatric Clinics of North America*, **12**, 363-381.

横浜市危機管理室 (2013). 津波からの避難に関するガイドライン 横浜市総務局 総務局トップページ 2015年1月20日 <<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/keikaku/tsunami/>> (2015年1月23日)